



ビヨンドトゥモロー
東北未来リーダーズサミット2013

チーム1

(魅力ある街づくり)

“魅力的な街”とは...？

世代を越えて震災体験 を共有し合える町

そのために私たち若い世代にできる事は...

世代を越えた被災者＋

交流行政

⇒ 一石四鳥のメリット

じゃあ、“交流”って何するの・・・？

地元版♡サミット

提言アドバイザー
・・・震災を経験した年配者

参加者・・・私達、地元の若い世代
今回のサミットに参加出来なかった
高校生

チーム2

(魅力ある街づくり)

<魅力ある街づくり>

「笑顔溢れる街」

課題

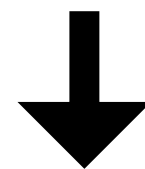
1. 人が集まらない
2. 住民の声が反映されてない
3. 当事者意識が低い

木山さんのインタビューから

1. 当事者意識
 2. 意見を通すには
 3. 一石四鳥
- 参加
チャレンジ
成功体験
納得するまで
話すこと

4. 笑顔に
は
かぎき

(感謝)(希望)(絆)



自立支援

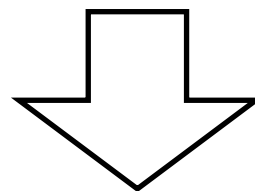
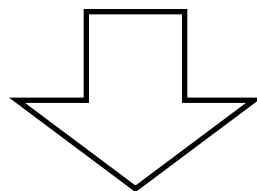
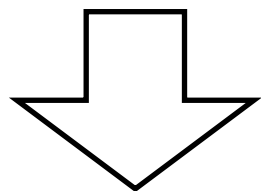
- ①問題/課題設定
②まきこみ
③解決

みちのくえがお マーチ(街)

課題1
人が集まらない

課題2
住民の声が
反映されない

課題3
当事者意識
が低い



1日目	2日目	3日目
楽しむ	意見交換	提言発表
・レクレーション ・郷土料理	・納得いくまで話す	・参加 ・チャレンジ

提言をどのように生かすか？

1. 国のトップへ
2. 自治体のトップへ
3. メディアへ

4. **Change.org 高校生バージョン開設**

5. 自らアクション

・高校で提言の発表



・自分たちの高校で
提言への署名を集める

10校 × 1000人

(参加者の高校)

= 10000人

更に高校どうしのつながりや、
次年の参加校増加を考えると...

〇〇校×△△△人

= ∞ の可能性!!

みちのくえがお マーチ(街)

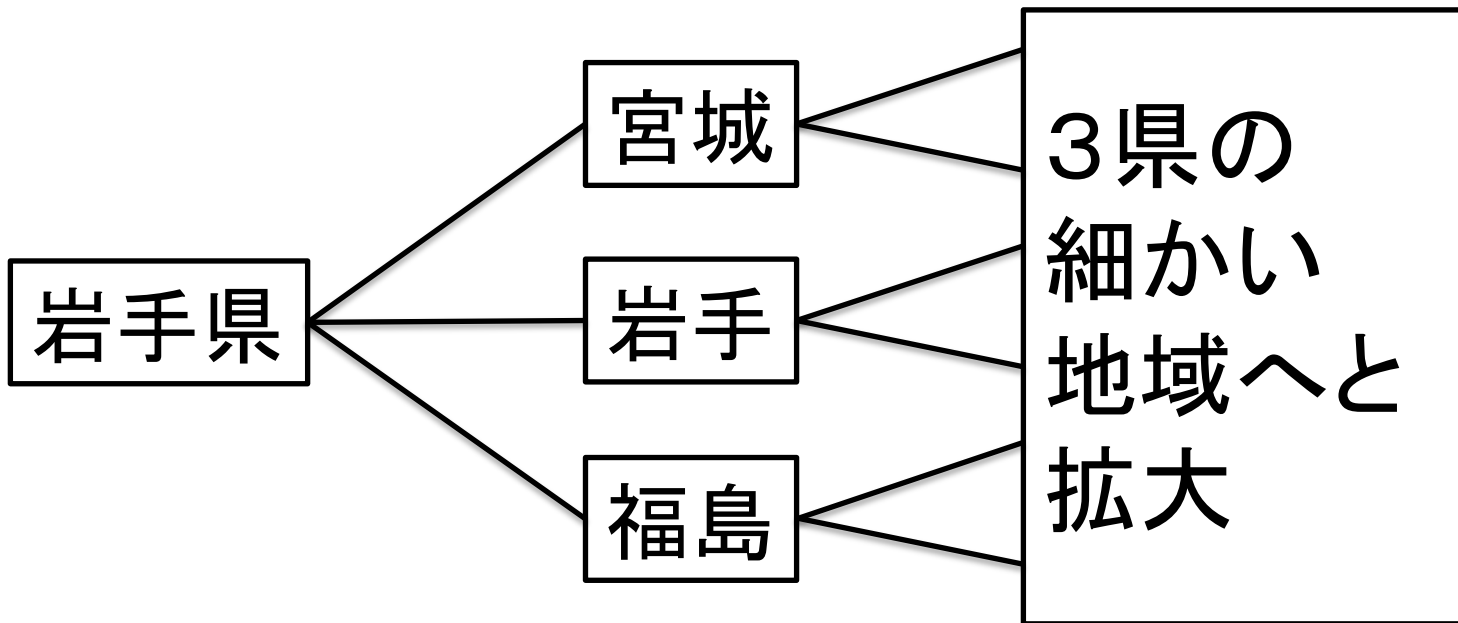
例

1年目

2年目

3年目

...



チーム3

(魅力ある街づくり)

魅力ある街づくり

— 街は人で出来ている！ —

～魅力ある街に必要なこと～

- 人の流れ
- 意見が反映される
- コミュニティ
- ブランド

～目的～

魅力ある街を目指して...

価値の再発見

みんながあまちゃん プロジェクト

～プロジェクト内容～

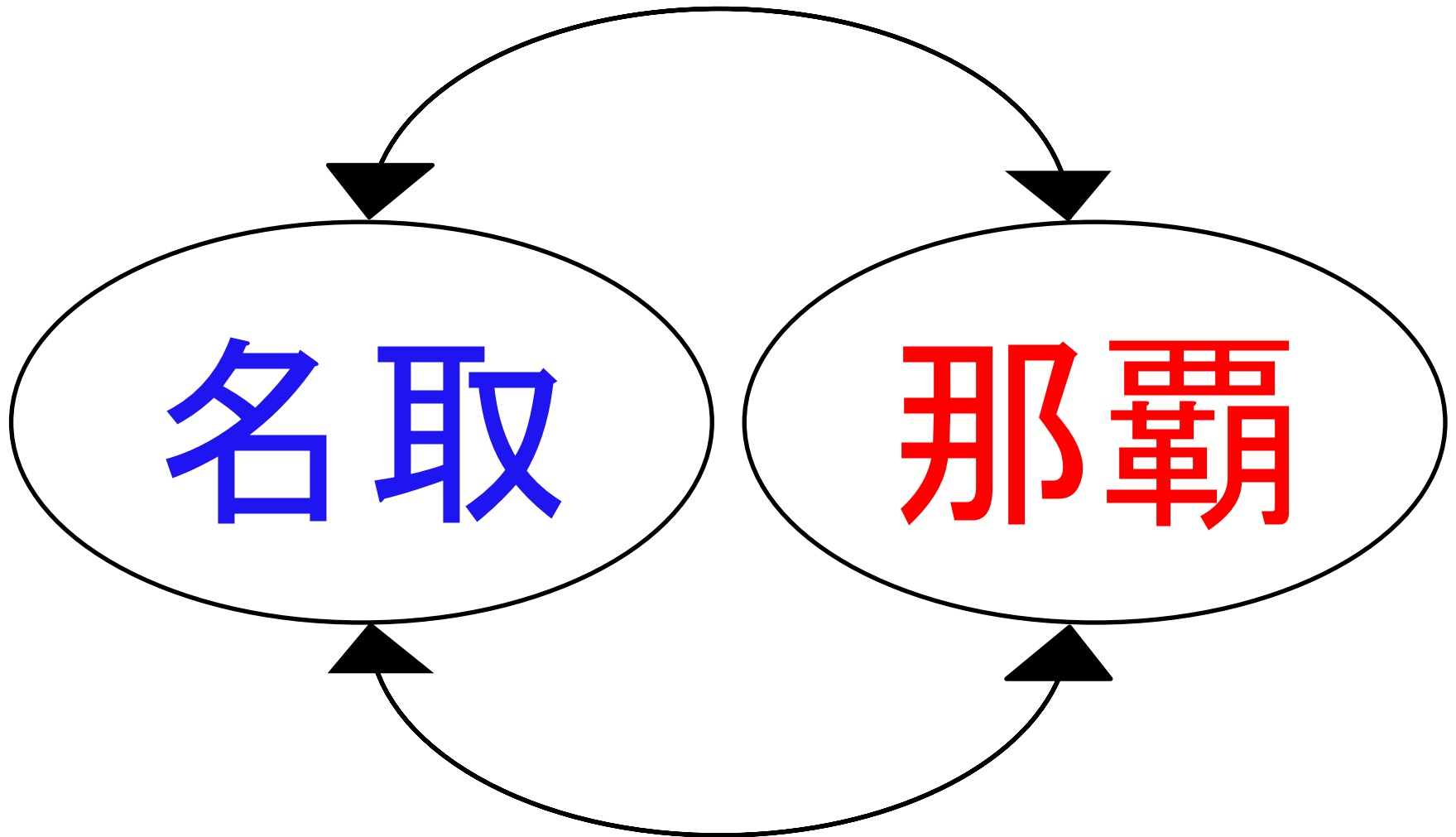
被災地の中高生

と

被災地外の中高生

の交換留学

例えば...



チーム4

(東北からの発信)

東北からの発信

～主人公はお前だぞ！！～

by 糸井重里氏

課題1

近い距離、遠い心

岩手	沿岸	内陸
宮城	沿岸	内陸
福島	警戒区域	内陸

解決策

近い距離、遠い心

一点突破

校内→町内→県内→被災3県
→日本→世界

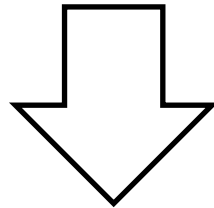
ex) 高校の提携

課題2

心の便秘

「誰にも話す機会がなかった」

3年目は自殺が多くなる...



心のケア

解決策

心の便秘

「初めて本当の自分を出すことが出来た」

ビヨンドTTユース
Tomorrow Tohoku

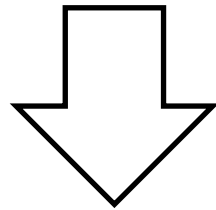
ex) 身近な所(学校など)で体験共有

まとめ

私たちのアクション

1. 高校提携

2. ビヨンドTTユース
サミット開催



個人から世界へつながる発信

チーム5

(東北からの発信)



TOKYO ● 2020

7年

東北を象徴するものがない。



Living Museum

託されたこと。

チーム6

(東北からの発信)

○課題

- 正しい情報の不足
- 震災の風化
- 意識の差

糸井さんに
1時間叱られました・・・

東北文化祭

～主役は自分たち！～

[柔]

- 名産グルメランキング
- 合唱
- ダンス・バンド
- ゆるキャラスタンプラリー
- 東北めんこいコンテスト

[硬]

- 学生団体のブース
- 現状報告
- 英語スピーチ
- 大学生を含めた震災ディスカッション

正しい情報の不足

→最新情報を調べ、発信する。

震災の風化

→様々な関心を通して、震災について考えてもらう。

意識の差

→文化祭を通じて共有し、差がなくなる。

チーム7

(世代を超えた協働の場)

こたつでミカン

菅野英那、武山友樹、三浦亜美
川守田智美、照井颯志、坂本秀美、稲村ほのか

そもそも

復興への関心がない



自分の町に魅力が・・・

アンケート

気仙沼の高校生

72／81人

地元を出ていく人

89%

京都市の高校生

45／88人

地元を出ていく人

51%

東北の魅力

世代を超えたコミュニティ



町のみんなで
映画を作ろう！

チーム8

(世代を超えた協働の場)

世代を超えた協働の場

= 高校生×政治

＜課題＞復興の完成図が明確になっていないので
人それぞれ実際には合意できていない。

- 水門（陸前高田市）
- 船・松・缶（気仙沼・高田・石巻）
- 仮設住宅（いわき市）
- 防潮堤（気仙沼）

世代を超えた 高校生による 地元復興のための民意

票興復元地

< メリットの波及効果 >

地域（意識共有＋情報交換）

家族（三世代の意見交換）

😊 高校生（間接的な政治参加）

世代を超えて民意を形成できる

2020年 雁部市長誕生！！

チーム9

(世代を超えた協働の場)

9 班 世代を超えた 協働システム

佐々木亜輝

渋谷駿

菅原彩加

関口琴乃

橋本慧実

浜登美海

問題提起

- 異世代間の交流がない！
- 被災地内外の
つながりがない！

WEB・FB・チラシ

東北未来大学

伝える科

町づくり科

リーダー
シipp科

講義

プロジェクトを考案
ワクワク♪

実行

プロジェクト参加
一緒にやる！

効果

各地で世代間の協働が
生まれ、 ワクワク  が
生まれる！

楽しく学ぼう

東北未来大学

一緒にワクワク

チーム10

(世代を超えた協働の場)

高校生の声を 政治に届ける ～世代を超えた協働

課題

高校生の声が政治に
届いていない!!

- 例) ①JR山田町バス問題
②会津若松市仮設住宅

アイデア  じえじえじえ！！

BTのつながりで偉い人に声を届ける
しくみ

- ① FB“東北・倍返し★”ページ
- ② 第1回BT高校生議会

①高校生と政治家をつなぐFBページ「東北・倍返し★」

- ・初期メンバー：チーム10、首相
大臣、東北3県の首長
- ・高校生の要望を伝える
- ・政治家の方は「倍返し！」で返事
- ・二週間以内に返事がない場合は
岩瀬さんが督促する

②第1回BT高校生議会

- 日時：2014年3月21～23日
- 開催地：気仙沼市
- 議員定数：45人
- 予算：150万円（スポンサー募集！）
- 議題：仮設住宅について

——→ 終了後、復興担当大臣に提出

高校生の声を政治家に届ける

E・H・C 戦略

エライ ヒトトの コネ を イカス

BT ならでは!!!

チーム11

(事例研究:「防潮堤建設計画」)

地域社会参加型の復興
(特定の事例研究)

防潮堤建設をめぐる議論から見える地域社会の構造
境界を超えた意思決定へのアクションプラン

11班, スカラーズ11名

① スカラーズ課題についての事例研究

内容

① リサーチ

- 被災地沿岸部の防潮堤建設についてリサーチ
 - 防潮堤建設のメリット、デメリット
 - 被災3県における防潮堤の建設状況

② リサーチ結果 仮説

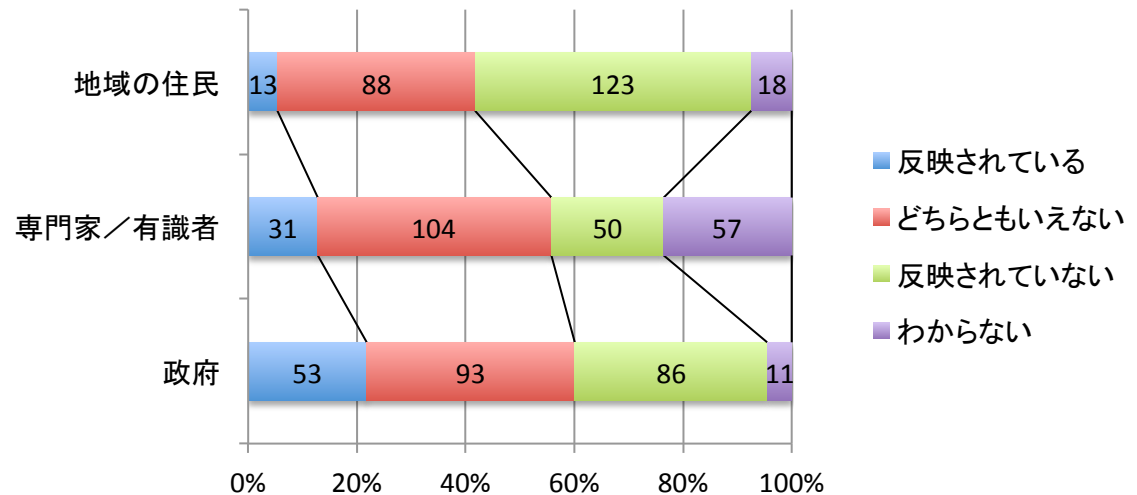
- リサーチ結果
防潮堤の建設は、地域住民の反対が強いため未着工箇所が存在する
- 導いた仮説
住民と行政との合意決定が円滑になされていないのではないか
- 「考えるべき」と最初に合意したアクションプラン
復興計画における合意形成の手法と実践

③ インタビュー セッション

- 人命に関わる防災インフラの整備に民意が反映される余地はない
有識者や海岸利用者などの
- > 法や制度が関連する、短期的には解決できない課題であるという気付き
=法と制度によるハードル

② 現在の社会に対する疑問提起

- ▶ 法や制度により、復興計画に地域住民の意思が反映されない社会への違和感



③ ミッション

- ▶ より多くの人々の意見が意思決定に反映されるような社会を目指す

④ 境界を超えた合意形成の可能性を探る

行動プラン:S.C.サミット

背景

▶ 現在存在すると考えられる境界とそれによる課題

1. 距離的隔絶による境界

意思決定機関が「いま問題が起きている現場」から離れているために、地元が求めている決定と乖離してしまう可能性がある

2. バックグラウンドの違いによる境界

ひとつの課題について、領域の異なるアクターが各々だけの利害を考えながら解決に向かおうとすることが、合意形成を阻む

内容

① これまでの課題

- 合意形成がなされず終りが見えない議論の連続
- 双方が歩み寄る余地を持たずに対立
- 様々なステークホルダーが各々の利害を優先し意見を衝突させあい、それらを融和させるために大きな苦労が伴っている

② 目的

- 様々なアクターが集まり議論する場を提供する
- 現実課題の議論に限らず、プログラムを通して当事者意識を共有できるようなプランを検討

③ 対象

- 直接的な被災者(沿岸部や原発立地地域の近くに在住)＋間接的な被災者(内陸部などに在住)
- 多様なバックグラウンドを有する人々

④ 展開

- メディア等を活用し社会的影響力の拡大に期待
- 行政の人々を巻き込み、自治体の内側から当事者意識や仲間意識を持った人々を増やす、「内側からの浸透」を促進
- 様々なセクタの中で、同様の当事者意識を共有する人々が増えていくことにより、境界を超えた議論を期待

⑥ プロセス

▶ 社会課題の解決に向かう際に望ましくないスタイル

様々なステークホルダーが各々の利害を優先し意見を衝突させる

▶ 目指したい意思決定のプロセス

S.C.サミットを通して...

多様なバックグラウンドを有する人々が共通の当事者意識を持ち
境界を超えてよりよい社会の創造に向かえるような環境をつくる

行政内部への浸透による意思の統一

▶ 境界を超えた合意形成の実現

より多くの人々の意見が反映されるような意思決定がなされるようになる